

資料館だより

第 24 号
令和2年3月



《巻頭写真》阿豆佐味天神社本殿修理工事彩色作業の様子
(関連2～5ページ)

目 次

目次・巻頭写真	1
特集 立川市指定有形文化財	
阿豆佐味天神社本殿修理概要	2
古民家園を知っていますか～古民家園周辺散策案内～	6
歴史民俗資料館・川越道緑地古民家園	
来訪者数 30 万人・25 万人達成！	11
平成 31（令和元）年度 資料館・古民家園の催し	13

特集 立川市指定有形文化財

阿豆佐味天神社本殿修理概要

立川市文化財保護審議会委員 稲葉 和也（建築史）

はじめに

立川市指定有形文化財阿豆佐味天神社本殿の修理工事は令和元年7月12日に完了致しました。この修理工事は当社が令和元年に御鎮座390年を迎えるに当たり行われた事業の一環としてなされたものです。

当社の本殿は昭和45年（1970）11月立川市有形文化財に指定され、昭和55年（1980）には御鎮座350年記念事業として本殿は拝殿の後方に基壇を設けて曳屋されて、鉄筋コンクリートの基礎の上に据えられました。その際覆屋は新しく建てられました。

しかし本殿と拝殿が離れているため維持管理も容易ではありませんでしたので、今回の記念事業として幣殿を増築して本殿との接続を良くするように計画されました。

本殿の建物は創建以来、屋根替えや傷んだ木部の補修と朱塗彩色などがされてきたことは、修理の棟札や墨書から判明していました。しかし今回事前調査をしましたところ、建物は風や地震で傾き、いたる所の木部が腐朽・欠損しておりました。また柱や梁などの構造材と木鼻や斗拱などの部材に残る彩色の剥落が目立ちました。

そのような修理前の状況から判断して、今回の本殿修理事業としては木

部の修理工事と彩色の塗替え工事を主に行い、工事期間は平成29年10月から22ヶ月間行われました。Ⅰ期工事は木工事、Ⅱ期工事は旧塗装の掻き落としと復元彩色の検討、Ⅲ期工事は彩色塗装工事がなされました。



竣工した本殿

1 本殿の創建とその沿革

当社は砂川村の総鎮守として村民から崇拝されてきましたが、その創建年代については宝永5年（1708）本殿棟札に記される「夫八十年以前巳年ノ年」が唯一の史料となっています。すなわちその80年前の寛永6年（1629）、砂川村の開発名主村野氏が出身地の岸村の氏神阿豆佐味天神社（現瑞穂町）を勧請したとされます。

この社は平安時代の『延喜式』神名帳（延長5年・927）に記された武蔵国多磨郡八社の一とされる古社（式内社と呼ばれる）で、中世には狭山丘陵一帯を支配していた武蔵七党のひとつ、村山党の産土神として周辺の人から敬われ、江戸時代になっても岸村、殿ヶ谷村、石畑村三村の鎮守でした。当社は古くは文明14年（1482）村山土佐守らにより、江戸期には宝永3年（1706）三村の氏子により、現在の本殿は明治27年（1894）に再建されたことが棟札から知られます。

寛永6年、砂川村の開発に伴って阿豆佐味天神社は勧請されましたが、村人は残堀川沿いにしか住める状況ではなく、本格的な開発は承応3年（1654）玉川上水が開削された後の明暦3年（1657）砂川分水に通水されてからのことで、元禄2年（1689）には耕作面積は342町歩と急速に増加しています。しかし名主の村野助左衛門はまだ岸村で差配をして、息子重左衛門が名代をしており、名主が居住するようになったのは元禄17年（1704）からのこととされています。

阿豆佐味天神社もそれまで無住で祀られていたようですが、宮司の宮崎家は宝永5年（1708）に社殿が再建された後、正徳5年（1715）になってから砂川に移住しています。

当社の近隣に所在する流泉寺は慶安3年（1650）に建立され、天龍山と号し、開山は東林香玉（寛文5年・1665寂）とされますが、寛延3年（1750）

に鑄造された梵鐘銘には、この寺が寛永に創建されて100余年経ち、

「今庚午一百有余年于兹星霜浸移及村民繁荣壇越三百有余年家也（後略）」村も栄えて檀家も300戸余となったと記されています。

阿豆佐味天神社本殿は18世紀の初頭、砂川村の繁栄を背景として再建されたのですが、その棟札（宝永5年・1708）から次のようなことが読み取れます。

この本殿は本宮がある殿ヶ谷村の宮司、宮崎修理大夫の宮崎信濃守平盛廣を中心として、砂川村の人から募金を集め、さらに棟木の金物や、鳥居、鰐口などの喜捨を受け、しかも地元大工の手によって造営されたのでした。注目されるのはすでに村に大工を抱えていたことで、それだけ村の普請も多く、社寺建築が出来るほどの技量も備えていたことです。

この社殿が造営された2年前の宝永3年には本宮の社殿も再建されていますが、本村とこの砂川村は同時期に経済的にも安定期を迎えたことが伺えます。

2 本殿改修の歴史

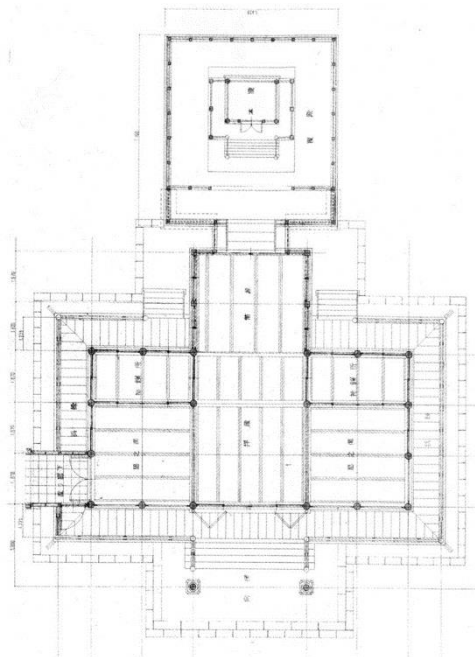
本殿が再建されてから以後本殿の修理・改修に係る史料や墨書など、年代順に列記しますと

- 1) 屋根再建立（棟札）文化11年（1814）柿葺き屋根の葺き替えが戸倉村の職人によりなされた。
- 2) 『石垣寄進帳』文化12年（1815）

本殿の基壇石積工事で、背面中央に村野五左衛門の名が刻まれる。

- 3) 屋根替（棟札）明治 15 年（1882）
屋根職名が記される。
- 4) 御本社奉修繕（棟札）
昭和 10 年（1935）内容は不明、
粗い補修や塗装の痕が残る。
- 5) 本殿曳屋、コンクリート基礎、覆
屋新築工事 昭和 55 年（1980）
御鎮座 350 年記念事業

昭和 55 年の改修まで本殿は拝殿のすぐ背後の覆屋に安置されていました。この拝殿は天保 10 年（1839）から再建され文久年（1862）に竣工したもので、彫物に特徴が見られます。



昭和 55 年 改修前の配置図

幣殿から木階で地面に下りて本殿を拝する古形式が保たれており、今回の改修では旧幣殿がさらに増築されて本殿との間が狭くなりました。

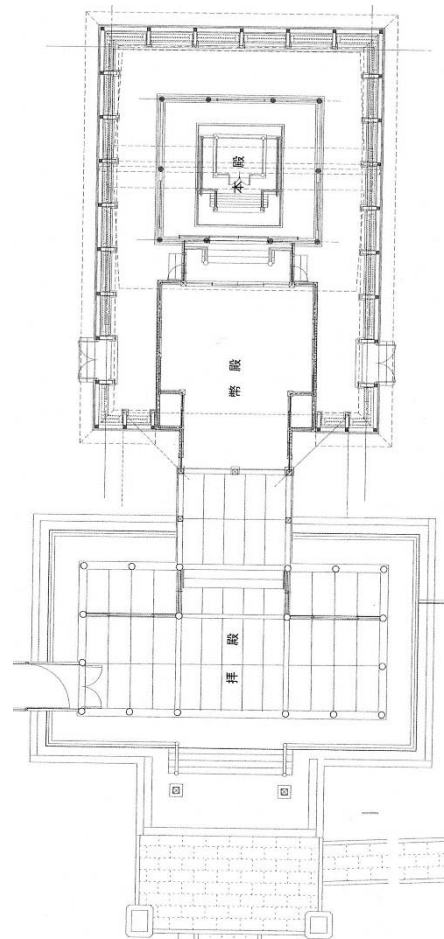
また同時に、その左右に片開きの戸

が設けられて、本殿の維持管理や文化財公開の際にも便宜となるようなご配慮を頂きました（図◀印）。

3 今回の修理

今回本殿修理工事にあたり、事前の調査を踏まえてⅠ期～Ⅲ期工事が行われました。

Ⅰ期 木工事 建物の歪みを直して腐朽や傷む個所を根継ぎや矧ぎ木などで補修した。破風、軒廻りの垂木、縁廻りなどに傷みが多かった。



令和 2 年 改修後の配置図

中央幣殿が増築され、覆屋共々透き扉で囲まれて厳かな雰囲気となりました。

Ⅱ期 塗装掻き落し・復元彩色検討工

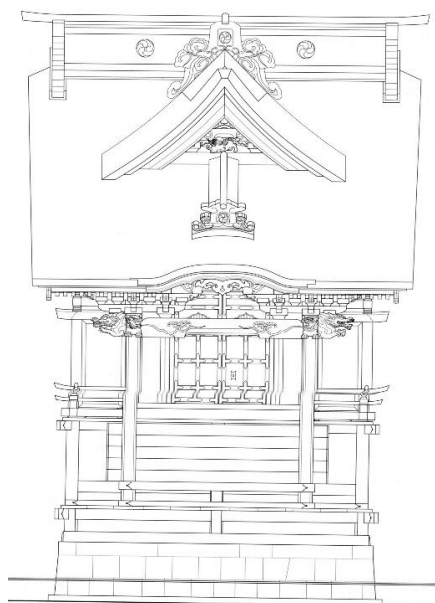
事 まず現状絵様の記録を行い、次に旧塗装を掻き落として清掃し、旧文様の痕跡を確認して絵様、彩色を決定。彫物隅部の古い彩色痕や支輪胡粉下地の彩色風蝕痕などを確認した。

Ⅲ期 彩色塗装工事 柱、梁、垂木などの木部は弁柄塗りで、絵様の縁取りなどは胡粉塗りとし、彫物は全て胡粉下地に彩色塗りとした。

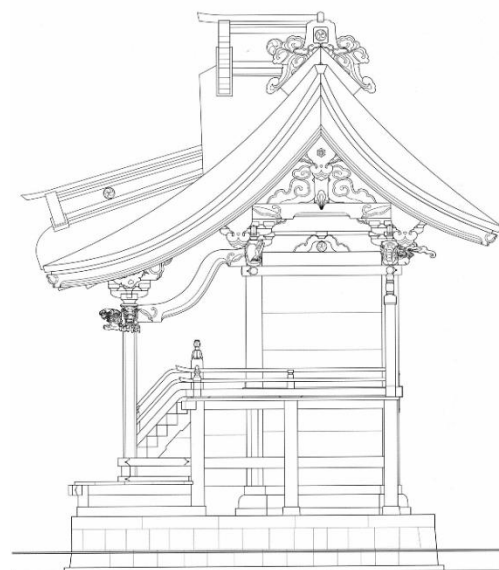
垂木木口には飾り金物の痕跡を確認し復元し、その他の古金物は補修、塗装がなされました。



竣工した本殿正面 唐破風の曲線が美しい



本殿正面図 唐破風の上にさらに千鳥破風



本殿側面図 流造の柿葺き屋根が美しい

以上で修理工事は完了しましたが、早速秋の東京文化財ウィークで募った人達に特別公開して頂けました。



拝観にあたりお清めを受ける見学者

この本殿は宝永5年に造営されましたが、その前年から起った富士山大噴火で火山灰も大量に降って多摩地域も大被害を受けました。その災害をものともせず砂川村の村人たちは心血注いでこの社殿を造ったことでしょう。

これからも砂川地域のみならず広く市民から崇拝される社として大切に保存していかなばなりません。

古民家園を知っていますか？

～古民家園周辺散策案内～



川越道緑地古民家園の周辺地図

JR立川駅北口から幸町団地行き
きのバスに乗り約15分、五日市
街道を東に進み、古民家園入口の
交差点で左折し平成新道に入ると、
こんもりとした森が見えてきます。
古民家園東のバス停で降りて道路
沿いを行くと、大きな茅葺屋根の

家が見えてきます。ここが、立川
市歴史民俗資料館の附属施設とし
て、平成5年(1993)10月に
オープンした川越道緑地古民家園
です。約2,100㎡の敷地に、茅
葺屋根の小林家住宅(市指定有形
文化財)、砂川十番組大のぼり(市
指定有形文化財)、須崎家内蔵(市
指定有形民俗文化財)の3つの文
化財が静かに時を刻んでいます。
この古民家園がある川越道緑地は
コナラ、クヌギなどが自生してい
る雑木林で、都市計画緑地として
保護されています。なぜ川越道と
呼ばれるかといいますと、砂川地
域の昔の字名は、川越道・大山道・
江ノ島道など道路を中心として名



古民家園敷地図

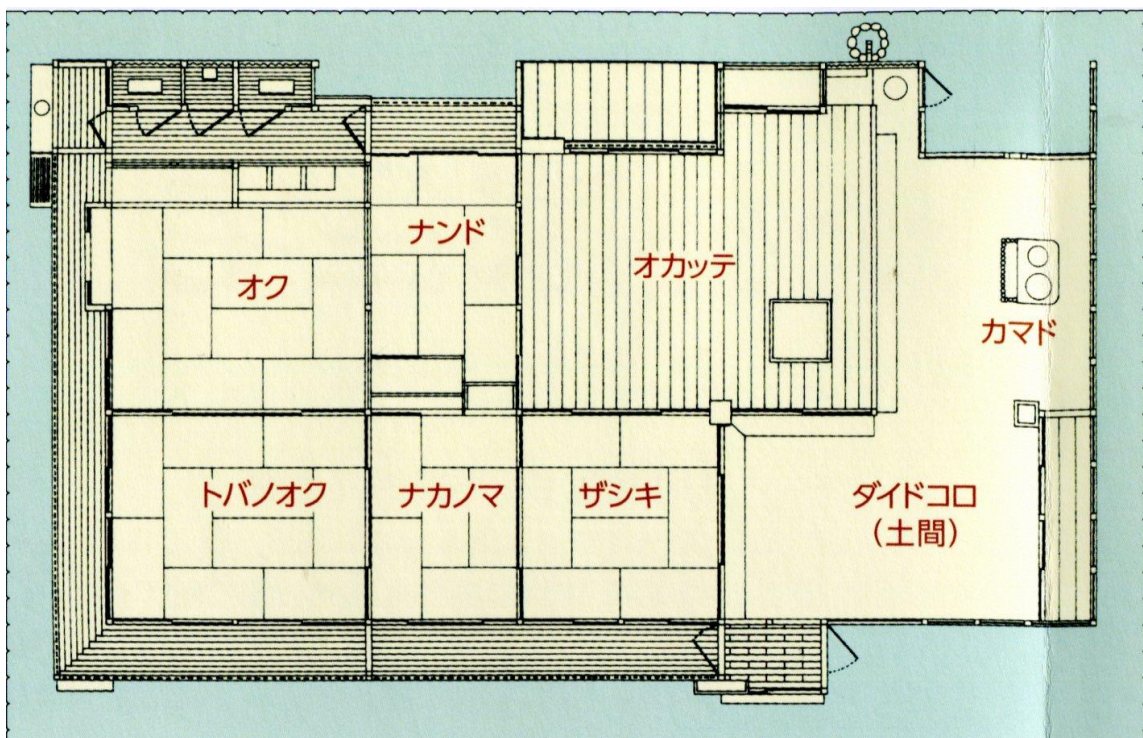
付けられている地域がありました。例えば、川越道東・川越道西、大山道東・大山道西、江ノ島道東・江ノ島道西などです。古民家園あたりは川越道西です。地形は、ちょうど武蔵野段丘と立川段丘の河岸段丘の境にあり、広い傾斜地になっていることが見て取れます。雑木林の落葉は肥料として、枝は木材・燃料として使えるなど、昔はこのような雑木林が畑の間に点在していたようです。

○小林家住宅

江戸時代砂川九番組の組頭を務めた小林家の住宅を解体・移築して、創建当時の姿で復元したものです。屋根は入母屋造りの茅葺屋

根、母屋はダイドコロを除く6部屋（ザシキ・ナカノマ・トバノオク・オク・ナンド・オカッテ）で構成された六間型で、解体時に「嘉永五年」（1852）と書かれた部材が発見され建築年代が明らかになっており、大黒柱・梁・板の間などに江戸時代後期の優れた建築技術と材料が使われています。嘉永5年は、徳川幕府第12代将軍徳川家慶の時代で、ペリーが浦賀沖に来航する1年前にあたります。

最大の特徴は、母屋北西に配置された客間である10畳のオクの間で、違い棚、床の間、付書院などの座敷飾りが配置され、当時の武家屋敷にも匹敵するほどの高い格式を持っています。また、トバ



小林家住宅平面図

ノオクとオクの間を隔てる壁の菱欄間、オクの間の高貴な畳縁、お客様用の漆塗りの便器などは一見の価値があります。板張りのオカッテには囲炉裏があり、毎日火が焚かれています。この住宅は平屋に見えますが、3階建てで、2階にはここで働いていた男衆と女衆の部屋、3階は物置などとして使用していました。

間口 18.5m、奥行 10.7mの建坪 198㎡（約 60坪）、高さ 8.7mある3階建ての建物は、江戸時代末期の富裕な上層農家の生活様式を今に伝える建物として、平成5年3月に移築復元しました。

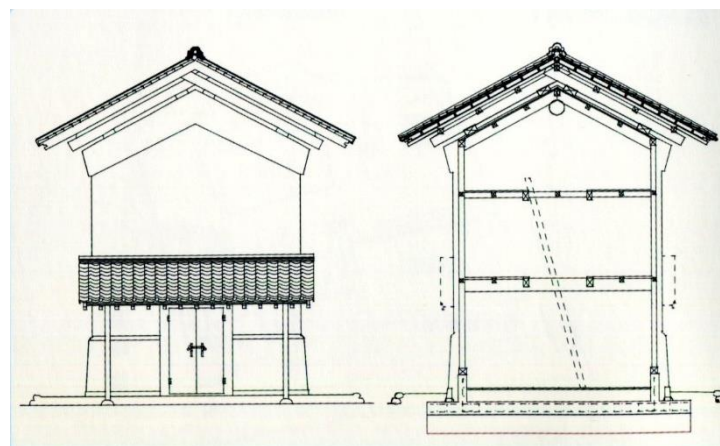
○砂川十番組大のぼり（棹）

砂川十番組で作られた大きな幟幡で、嘉永元年（1848）に作られ神社の祭礼時に参道や氏子区域にたてられたものです。幟幡の文字は「御祭禮」と書かれていて、

谷保村（現国立市谷保）の書家本田覚庵の手によるものです。棹の長さ 22m、これを支える挟み木は 1枚 300 kgのけやき材で、優美で精巧な飾り彫刻で装飾されています。幟幡の大きさは長さ 14.6m 幅 2.2mと近隣のものと比べても大変大きいものです。幟幡の規模や優美な装飾品から、江戸末期の地域共同体の社会経済活動を窺い知ることができる貴重な資料として、平成 11 年に保存会から寄贈を受け、旗・彫刻などは歴史民俗資料館で保存しています。

○須崎家内蔵

江戸時代砂川八番組の組頭を務めた須崎家の内蔵（母屋から直接出入りできる蔵）を解体・外蔵に改修して移築したもので、珍しい3階建ての蔵です。解体時の部材や工法から江戸時代の末期から明治時代の初期の建築と推定されて



須崎家内蔵

います。間口 4.5m、奥行 3.6m、高さ 8.5mの大きさで、小屋組に登梁を用い、柱・梁や内壁などに高価なケヤキ材がふんだんに使われています。特に内壁は削りなおしたケヤキ板が最上階から落とし込まれている見事な施工です。蔵内は、階上に上がる箱階段（収納機能を持つ階段で附属の抽斗ひきだしの中に貴重品等を入れることができる）が設置され、質屋を営んでいたことから当時の証文などが展示してあります。蔵内に保存されていた古文書や民俗資料とともに江戸時代末期の盛んな商業活動を象徴する建物として、平成 28 年（2016）4 月に移築復元しました。

○その他の活動

古民家園は、市立小学校の 3 年生の社会科見学のコースになっていて、毎年多くの小学 3 年生が来園し、文化財や昔の農機具・台所用具などについて学ぶ機会を提供しています。季節にちなんだ桃の節句、端午の節句、七夕飾りなどのミニ企画展や、園内の畑を利用して昔から砂川地域で作られていた小麦やさつま芋を育て、収穫の喜びを家族で味わう体験学習などのイベントも開催しています。

その他園内には貯穀蔵、外便所

や杏あんず・梅の古木、竹林などがあり、庭は枯山水を模した庭園になっています。

こうした中、令和元年 9 月には、開園以来 25 万人目のお客様を迎えることができました。

休園日は毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は開園し翌日閉園）と年末年始。開園時間は 9:00～16:30。入園は無料で、園内は見学自由です。他の交通機関としては多摩モノレール砂川七番駅から徒歩 15 分、または多摩モノレール・西武線玉川上水駅から徒歩 20 分ほどで古民家園に到着します。

野鳥のさえずり、木の葉の擦れ合う音、囲炉裏の煙など天気の良い日、住宅の縁側で、しばし都会の喧騒を離れて、ゆっくりとした静寂の中で過ごすのは心が休まり、ゆったりとした気持ちになります。

皆さんも一度お出かけになられてはいかがでしょうか。

次に古民家園の周辺の散歩道を紹介します。

○馬頭観世音ばとうかんぜおんから小川橋

馬頭観世音は、農業の大切な担い手だった牛や馬が病気になったり死んだりした時、その供養のために嘉永元年に砂川八番組によっ

て建てられたもので、地上約 2.3 mと市内で最大のものです。五日市街道からこの馬頭観世音を經由して小川橋方向へ続く道が小川道で、砂川村と小平の小川村と結び主要な道路でした。小川橋を直進すると東京都薬用植物園を経て東大和市駅に出て、青梅街道と出会います。

○小川橋から玉川上水散策路を経て玉川上水駅

小川橋を玉川上水沿いに左折すると、上水沿いの散策路が整備され、途中東京都水道局の小平監視所（玉川上水と野火止用水の分岐点）を経て、玉川上水駅に到着します。

承応元年（1652）江戸の住民に水道水を供給するため、多摩川の水を江戸に引く計画を立てた徳川幕府は、庄右衛門・清右衛門兄弟を工事請負人に任命し、承応2年に工事着手し、わずか8か月で完成させました。承応3年に通水を開始し、羽村取水口から四谷大木戸までの43 kmを、標高差92 mを利用して自然流下させるなど当時の水利技術の高さが窺えるものです。この功績により兄弟は「玉川」の姓を賜りました。玉川上水は武蔵野台地の稜線を流れているため野火止用水をはじめ多くの分

水を引くことが可能となり、水の乏しい武蔵野の新田開発に大いに貢献しました。立川市内でも砂川分水が明暦3年（1657）、殿ヶ谷分水が享保5年（1720）、柴崎分水が元文2年（1737）に完成して農業や生活用水、飲料水としても活用されました。国は玉川上水を貴重な江戸時代の土木遺産として、平成15年に羽村取水口から約30 kmの開渠部分^{かいきよ}を文化財保護法に基づき史跡指定しています。

○五日市街道

杉並区梅里で青梅街道と別れ、小平市・立川市・福生市・あきる野市伊奈等を経由してあきる野市五日市に至る約42 kmの街道です。その経路は都道杉並五日市線とほとんど重なっています。江戸時代初期には成立し伊奈道や五日市道と呼ばれていた時代もあり、五日市宿や伊奈宿と江戸の間で、木炭・薪・木材、伊奈石と呼ばれる良質の石材などの流通により発展してきました。

○鷹の道

砂川村は、江戸時代尾張徳川家の鷹狩りの地域（鷹場）の一部になっていたこともあり、鷹の道橋や鷹の道など鷹に縁がある名称の場所があります。

歴史民俗資料館・川越道緑地古民家園 来訪者数 30 万人・25 万人達成!



歴史民俗資料館来館者数 30 万人達成の佐藤さん母子(左)・
川越道緑地古民家園来園者数 25 万人達成の高橋さん一家(右)

歴史民俗資料館・古民家園とも、
ほぼ時を同じくして開館以来の累
計来館・来園者数の節目を迎えま
した。

歴史民俗資料館は令和元
(2019)年6月27日(木)、
昭和60(1985)年12月1日
の開館から数えて、来館者数30
万人を達成しました。30万人目
の来館者は、立川市富士見町に引
っ越してきたばかりという佐藤喜
久子さんとお母さまの矢野忠子さ
んでした。これから立川のことを
色々学ぼうということで、ちょ
うど福岡県から上京していたお母さ
まと一緒に来館されたとのこと。

川越道緑地古民家園では令和元
年9月28日(土)に、平成5
(1993)年10月17日に開園
してからの来園者数25万人を達
成しました。25万人目の来園者
は、東大和市上北台にお住まいの
高橋哲哉さんご一家です。何度か
古民家園の前を通ったことがあり、
そのたびに「立派な家だなあ」と
思われていたそう。当日はご家族
3人で、たまたま入ってみようと
初めて来園されたそうで、「25
万人目でラッキーでした!」との
コメントをいただきました。

佐藤さん親子・高橋さんご一家
には証書と記念品を贈り、とても

喜んでインタビューにもお答えいただきました。

平成 31（令和元）年度末となる3月中は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、開館・開園以来はじめてとなる長期の臨時休館・休園措置をとりました。休館・休園中にも、「桃の節句」展を見たい、所蔵資料を閲覧したい、イベントは行わないのです

か？といった問い合わせや、実際に館へ足を運んでくださった方もいらっしゃいました。

この逆境に負けず、新年度も市民のみなさまの期待に応えられるよう、職員一同さまざまな企画を携えて、みなさまのご来館・ご来園、体験学習等イベントへのご参加を心よりお待ちしております♪

《利用状況》

歴史民俗資料館

	開館 日数	大人		子供		合計	一日 平均	団体利用	
		男	女	男	女			件数	人数
25年度	307	3,659	2,548	1,039	964	8,210	26.7	32	1,458
26年度	308	4,062	3,389	994	1,025	9,470	30.8	37	1,726
27年度	308	3,419	2,970	995	1,038	8,422	27.3	30	1,550
28年度	308	3,364	2,965	990	926	8,245	26.8	43	1,861
29年度	308	2,572	2,461	804	851	6,688	21.7	27	1,312
30年度	303	2,664	2,353	798	741	6,556	21.6	24	1,311
31年度	275	2,019	1,932	729	646	5,326	19.4	20	1,203
累計	10,344	119,004	82,590	54,407	47,952	303,953	29.4	1,467	303,953

川越道緑地古民家園

	開館 日数	大人		子供		合計	一日 平均	団体利用	
		男	女	男	女			件数	人数
25年度	307	3,170	2,773	1,151	1,063	8,157	26.6	47	1,662
26年度	308	3,138	2,630	1,154	1,060	7,982	25.9	29	1,266
27年度	308	2,877	2,420	1,224	1,286	7,807	25.4	42	1,795
28年度	308	3,072	2,456	1,060	1,278	7,866	25.5	44	1,633
29年度	308	2,610	2,177	923	929	6,639	21.6	51	1,558
30年度	308	2,513	2,017	995	1,007	6,532	21.2	58	1,697
31年度	280	2,447	1,892	1,005	988	6,332	22.6	53	1,660
累計	8,080	98,473	88,952	33,985	31,939	253,349	31.4	1,094	42,780

令和2年3月1日～31日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館・休園

平成31（令和元）年度 資料館・古民家園の催し

平成 31（令和元）年度、資料館と古民家園では、企画展や体験学習などさまざまな催しを行いました。その中の一部を紹介いたします。

1. 阿豆佐味天神社本殿特別公開

巻頭の特集にありましたように、平成 29 年から行われていた砂川地区(立川市の北部地域)の鎮守である阿豆佐味天神社本殿の修理が終了しました。工事完了を機に 10 月 20 日(日)、26 日(土)に特別公開を行いました。東京文化財ウィークの企画事業としたので、市内外から多くの方の応募がありました。定員 20 名であったので多くの方をお断りすることになりました。通常未公開の場所の見学であり、厳かな雰囲気の中、参加者の皆さんは熱心に講師の話に耳を傾けていました。

2. 企画展「立川てんしゃば物語～立川駅と立川の近代化～」

平成 31 年・令和元年は、中央線が開通して、立川駅が開設されてから 130 年目にあたりました。立川の近代化は立川駅の開設から始まったともいわれており、立川駅に照準を当てた企画展を開催しました。

関連イベントとして、講演会を 1 回、見学会を 3 回(「立川の近・

現代を歩く」、「立川の近代化遺産を巡る」、「五鉄跡を歩く」)開催予定でしたが、残念ながら「立川の近代化遺産を巡る」は荒天のため中止になってしまいました。講演会は 41 名、見学会は各 22 名、19 名と、多くの方にご参加いただきました。



立川の近・現代を歩く
(羽衣小橋にて)

3. ミニ企画展

ミニ企画展は端午の節句や七夕などの季節の行事に関連する展示です。令和 2 年 2 月 4 日(火)～2 月 29 日(土)にミニ企画展「桃の節句」を歴史民俗資料館ラウンジ・古民家園母屋において開催しました。市民の皆様からご寄贈いただいた明治～昭和時代のひな人形約 150 点を展示しました。当初は 3 月 8 日(日)までの予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止



対策のため、3月1日（日）以降は、臨時休館・休園となり、展示期間を短縮しました。

4. 体験学習

古民家園で開催している体験学習は、麦刈りや脱穀、サツマイモ



麦刈り体験

の収穫など、農作業に関するものです。近代的な機械を使わず、鎌や唐箕^{とうみ}などのかつて使われていた農具を使って作業を行っています。

平成31（令和元）年度 企画展

展 示 名	期 間	場 所
ミニ企画展 端午の節句	4/9（火）～5/12（日）	資料館・古民家園
企画展 新収蔵品展	6/11（火）～7/7（日）	資料館
ミニ企画展 七夕飾り	7/2（火）～7/7（日）	資料館・古民家園
企画展 立川の遺跡 2019	7/23（火）～9/1（日）	資料館
企画展 記念物 100年	7/30（火）～9/1（日）	資料館
写真展 立川駅前の移り変わり	9/7（土）～10/14（月祝）	資料館
企画展 立川てんしゃば物語 ～立川駅と立川の近代化～	10/22（火祝）～12/15（日）	資料館
東京文化財ウィーク 2019 公開事業 銅鉦鼓展	10/29（火）～11/24（日）	資料館
写真展 立川の風景と人のいとなみ ～未来に伝えたいだからもの～	12/10（火）～2/16（日）	資料館
企画展 暮らしと道具～むかしの生活～	1/15（水）～2/16（日）	資料館
ミニ企画展 桃の節句	2/4（火）～2/29（土） 3/1～3/8は臨時休館※2	資料館・古民家園

平成31（令和元）年度 体験学習

場 所	講 座 名	実 施 日	人 数
歴史民俗資料館	手打ちそば作り	6/9（日）	31
	手打ちうどん作りと十五夜飾り	9/8（日）	29
	玉ねぎでハンカチを染めよう（染物体験）	9/23（月祝）	10
	手打ちそば作り	11/17（日）	30
	もちつきと鏡餅作り	12/15（日）	27
	繭玉飾りと七草粥作り	1/13（月祝）	17
古民家園	麦刈り体験	6/2（日）	13
	麦脱穀体験	6/30（日）	15
	さつま芋収穫体験	10/20（日）	40
市 内 他	根川と多摩川の自然観察	4/7（日）	19
	玉川上水沿いの自然観察	5/17（金）	18
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	10/14（月祝）	16
	東京文化財ウィーク2019企画事業 立川市指定有形文化財 「阿豆佐味天神社本殿」特別公開	10/20（日） 10/26（土）	16 20
	企画展関連見学会1 立川市の近・現代を歩く	11/4（月祝）	22
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	11/10（日）	19
	企画展関連見学会2 立川の近代化遺産を巡る	11/23（土祝）	※1
	企画展関連見学会3 五鉄跡を歩く	12/1（日）	19
	市内文化財散歩 柴崎分水を歩く	3/15（日）	※2

平成31（令和元）年度 講演会

名 称	会 場	実 施 日	人 数
企画展関連講演会 「鉄道忌避伝説と立川」 「青梅短絡線敷設の経緯」	女性総合センター	11/16（土）	41
多摩郷土誌フェア関連講演会 「中世多摩の文字使い ～板碑と経典文字からわかること～」 「植物観察からはじまるまちの自然史」	女性総合センター	1/18（土）	27 38

平成31（令和元）年度 出張事業

事業名	期間	場所
出張事業 ニホンゴ探検 2019	7/20（土）	国立国語研究所
出張講座 昔の道具体験 （市立第九小学校3年生）	2/4（火）	市立第九小学校
出張講座 昔の道具体験 （市立若葉台小学校3年生）	2/13（木）	古民家園

平成31年（令和元）年度

古民家園茶たて事業～お茶を楽しみませんか～

回数	実施日	人数	回数	実施日	人数
1	4/21（日）	32	3	11/24（日）	32
2	10/10（木）	19	4	3/12（木）	※2

平成31（令和元）年度 その他事業

事業名	期間	場所
第15回はた織りまつり・夏	8/25（日）	資料館
第16回はた織りまつり・春	3/22（日）※2	資料館

※1 荒天のため開催中止

※2 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催中止

資料館だより 第24号

発行日 2020年（令和2年）3月31日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

（立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係）

住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236